

〈資料紹介〉村岡典嗣「Herakleitosノ研究」

本村昌文
鈴木亮三

1. 解説

本稿で紹介するのは、村岡典嗣（明治17年・1884～昭和21年・1946）の執筆「Herakleitosノ研究」（東北大学史料館所蔵、村岡典嗣文書・村岡Ⅱ・1-2）である。村岡典嗣は、日本思想史という学問分野の創始者の一人として紹介されることが多く、主著である『本居宣長』は現在に至るまで読み継がれる宣長研究の必読書である。

早稲田大学在学時に、村岡は宗教哲学者である波多野精一（1877～1950）に学び、西洋哲学に関する素養も深かったと考えられる。従来の研究においても、村岡の研究方法に影響を与えたアウグスト・ベックや新カント派との関係について研究が進められている。しかし、村岡の師である波多野精一が田中美知太郎に宛てた書簡のなかで、「君（村岡のこと一筆者注）は竹柏園の創立者佐々木弘綱翁の身内のものとして、同翁の家に少年時代を送つたためせう、年少の時より古事記万葉を活かしてゐる、日本古代精神の雰囲気のうちで育まれました。大学に入るに及んで、私の講義によつてはじめてギリシアの文化及び思想に接し、それら二つの精神の類似に打たれてギリシアの尊崇者となり、傍ら西洋精神の深みを究めるために、十九世紀の *historische Theologie* に親しみました」と記しているように（1）、古代ギリシア哲学への強い関心がみられるにもかかわらず、村岡の思想と古代ギリシア哲学との関係については研究が進展していないのが現状である。

以上の研究状況をふまえ、『東北大学史料館紀要』第14号（2019年3月）において、筆者は村岡典嗣文書（東北大学史料館所蔵）に収められている「Herakleitos」（大正5年12月初め～17日脱稿）を翻刻した（以下、この資料を「ヘラクレイトス第一草稿」と記す）。この資料は、村岡が早稲田大学嘱託講師のときに、学生たちとともに立ち上げた哲学研究会の第11回例会で発表した内容に関わる原稿であり、村岡のヘラクレイトス理解の解明に資するものといえる。

『東北大学史料館紀要』第14号の解説にも記したが、哲学研究会の第11回例会で発表した内容に関わる原稿は3つある。本号で紹介する資料には「大正五年十二月十八日第二稿」と記載されており、『東北大学史料館紀要』第14号で翻刻した「ヘラクレイトス第一草稿」が脱稿した翌日に改稿した原稿であると考えられる（以下、この資料を「ヘラクレイトス第二草稿」と記す）。

本号で紹介する「ヘラクレイトス第二草稿」について説明をしておきたい。形態は横罫ノート、タテ205ミリメートル×ヨコ163ミリメートル、書き出し部分に「Herakleitosノ研究（大正五年十二月十八日第二稿）」と記載されている。この原稿が書かれているノートは、村岡典嗣文書では「〔ギリシア哲学関係原稿〕」と表記されており、ノートには「Herakleitosノ研究」以外に、「Thalesの学説とその歴史的意義」「ParmenidesのSeinの思想について」「HerakleitosのCoincidentia oppositorumの思想」と題された原稿やメモ書きが記されている。村岡のノートの使い方として、左側のページには参考となるメモ書きや正文の修正や補足などが記載され、右側のページに原稿の正文を記載することが多く、このノートも同様の使い方がなされている。本稿では、これらのうち、「Herakleitosノ研究」に該当する正文に相当する部分（ノート全体で142頁、うち「ヘラクレイトス第二草稿」は40頁分）を翻刻する。

「ヘラクレイトス第二草稿」の目次は、以下のとおりである。

- 第一、 Introduction
- 第二、 主要ナル思想トソノ分析
- 第三、 ソノ思想ノ関係ト *wesenlich* ノ思想
- 第四、 Zeller ト Baumker トノ見解トソノ批評

各章の内容は次のとおりである。第一章では、ヘラクレイトスの思想を検討する資料について、またそれらの資料からうかがえる全体的な特質について言及している。第二章では、ヘラクレイトスの思想を理解するうえでカギとなる「火」「万物流転」「反対の調和」についての考察を行っている。第三章では、第二章の考察をもとに「火」「万物流転」「反対の調和」の関係について分析し、ヘラクレイトスの思想の本質が「反対の調和」——村岡の表現を借りれば「Harmony of opposite ノ思想」にあることを述べている。そして、第四章では、第三章で明らかにしたヘラクレイトス理解とは異なる「万物流転」を中核とする学説に関する批判的検証を行っている。

「ヘラクレイトス第一草稿」の目次と比較すると、第一章が「全汎的概説」から「Introduction」に、第二章が「重要ナル思想トソノ分析」から「主要ナル思想トソノ分析」に、第三章が「彼ノ思想ノ relation トソノ Wesen」から「ソノ思想ノ関係ト *wesenlich* ノ思想」へと微細な修正がなされている。さらに、第四章は「Zeller 等の見解ノ批評ト結論」から「Zeller ト Baumker トノ見解トソノ批評」へと修正されており、後述するように内容が増補されている。

第四章のタイトルに追記された「Baumker」は、中世哲学史家のクレメンス・ボイムカー (Clemens Baeumker, 1853年～1924年) のことを指すと考えられる。ボイムカーはドイツのミュンヘン大学で教鞭をとり、中世におけるプラトン主義研究を牽引した人物である。

「ヘラクレイトス第二草稿」の目次では「第四章 Zeller ト Baumker トノ見解トソノ批評」と記されているが、実際に書かれた本文をみると目次の表記とはやや異なっているところがある。第三章にあたる「ソノ思想ノ関係ト *wesenlich* ノ思想」の後に、まず「第四 Zeller ノ見解トソノ批評」と記されており、「ヘラクレイトス第一草稿」の内容を修正・追記した文章に続く。その文章が終わった後に、「第四 Zeller, 及び Gonverz — Baumker」と記された章がはじまり、正文を記す右頁分では内容をすべて書ききれず、左頁の3頁分に残りの部分を記している。その内容は、「ヘラクレイトス第一草稿」よりも大幅に増補されている。

本文のタイトルに追記された「Gonverz」とは、テオドール・ゴンペルツ (Theodor Gomperz, 1832年～1912年) のことを指すと考えられる。ゴンペルツはオーストリアの哲学者・古典文献学者であり、主著である『ギリシアの思想家達』 (Griechische Denker 全3巻) はプラトン以降前3世紀までを扱っており、とくにアリストテレスについて詳述されている。なお、この著書を村岡が読んでいたことは、「哲学辞典 希臘之部 第二冊 [資料メモ・抄録]」 (村岡典嗣文書、村岡Ⅳ・1-4。東北大学史料館所蔵) のなかに、「Gompelz Griechische Denker」と記して、同書からの抜き書きをしていることからわかる。

村岡がエドワード・ツェラー (Eduard Zeller, 1814年～1908年、ドイツの哲学史家)、クレメンス・ボイムカー、テオドール・ゴンペルツの学説を紹介したのは、ヘラクレイトスの思想

の解釈の代表的な人物と認識していたからである。村岡は「第四 Zeller, 及ビ Gonverz — Baumker」という表題を記した後に、以下のように述べている。

- 1) 然ルニ有力ナル史家ノ間ニハ別ナル解釈ガ行ハレテタル、即チ
 - (1) fluxノ思想ヲ重キヲオイテ解釈スルモノ — Zeller
 - (2) Fireノ思想ヲ出立点トスル解釈 — Baumker、Gonverz

村岡はヘラクレイトスの思想の解釈を「流転」を重視する立場と「火」を重視する立場に分け、前者の代表的な学者としてエドワード・ツェラー、後者の代表的な学者としてクレメンス・ボイムカーとテオドール・ゴンペルツを挙げている。村岡はヘラクレイトスの思想の根幹を「Harmony of opposite」（反対の調和）にあると捉えており、ツェラー、ボイムカー、ゴンペルツの解釈に対して批判的な検証を行っている。ボイムカー、ゴンペルツについては、「コノ解釈ハ Zeller フリノ flux 中心ノ解釈ノ無理ヲ脱シツ、又他ノ無理ニ陥ツテ結果 Harmony 中心ノ解釈ニ帰セムトシテキル」とし、ツェラーの解釈の難点を克服しつつも、別な難点を生み出すことに陥ってしまっていると評価している。「ヘラクレイトス第一草稿」ではツェラーの学説の紹介と批判が中心であったが、「ヘラクレイトス第二草稿」においてボイムカーとゴンペルツの学説の紹介と批判が追記されることで、村岡は自身のヘラクレイトス理解の正当性を多角的に根拠づけようと試みていたといえよう。

内容の追記ではなく、配列をかえた箇所もある。それは「第二章 主要ナル思想トソノ分析」の箇所である。この箇所は、ヘラクレイトスの主要な思想を紹介する部分である。ヘラクレイトスの主要な思想として、村岡は「万物流転」「火」「反対の調和」を挙げている。「ヘラクレイトス第一草稿」では、「彼ノ哲学ニオケル主ナル思想トシテ、吾人ハ Feuer、Flux、Harmony of opposites ノ三者を数ヘウ」と述べ、「火」→「万物流転」→「反対の調和」という順で紹介している。これに対して、「ヘラクレイトス第二草稿」では「彼ノ哲学ニオケル主ナル思想トシテハ、吾人ハ Flux、Fire、Harmony of opposite ノ三者ヲ数ヘウ」と書き換えており、「万物流転」→「火」→「反対の調和」という順番で紹介をしている。

以上の書き換えを行った理由は明記されていないため、村岡の意図がいかなるものであったのかを正確に知ることは難しい。ただし、村岡の意識を考える上で示唆を与えてくれる資料がある。『岩波哲学辞典』（岩波書店、1922年）のなかで、村岡が執筆した「ヘラクレイトス」の記述である。刊行された『岩波哲学辞典』の記述の一部を以下に引用する。

彼（ヘラクレイトスのこと—筆者注）自ら覚知しえたとなした真理は、帰するところ、外見上相争ひて独立せる事物も、畢竟は一、而してこの一はやがて多である。換言すれば、相戦へる諸々の反対の現象のうちには美しい調和が隠れ潜んでゐるといふ思想にある。而してかくの如き調和は彼に於いては、変化そのものに存する。「万物は流転する」。流転の外に実在を求むることは出来ぬ。流転その者が永久の実在である。宇宙の元質はこの流転そのものを現出してゐる火である。(2)

村岡はヘラクレイトスの思想の根幹を成すものが「反対の調和」にあると捉え、この調和が

「変化」自体に存在すること（「万物流転」）、そしてその「流転」が永遠なる実在であり、その本質は「火」と述べている。

以上の『岩波哲学辞典』の「ヘラクレイトス」の項目について、その草稿が村岡典嗣文書に残されている（3）。

カクテ彼ガ自ラ覚知シエタトナシタ真理ハ相反対シ外見上相争ヒ相独立セル事物モ畢竟ハ一而シテコノ一ヤカテ多テアル。換言スレハ相反対セル相戦ヘル反対ノウチニハ調和カ潜在キルトイフ思想ニアル。カクテ彼ハコノ真理ヲサマサマニ考ヘタ。之ヲ即チ元質ニ対シテハカクノ如キ多即一ノ真理ヲ象徴スルニ最モフサハシイ。火ヲ以テ元質トナシタ。火ハカクノ如キ而シテカクノ如キ調和ハ彼ニ於イテハ変化ソノモノニ於イテ存スル。万物流転シテ止ルコトカナイ。流転ソノモノカ実ニ永久ノ実在テアル。而シテコノ過程流転考ヘカラシテ、彼ハ宇宙ノ本質ヲツネニ流転ノ有限ヲ現シテキル火ニ求メタ。而シテ火ノ燃キテ宇宙ハ永久ニ燃エル火テアルトナシタ。

引用中の線を引いている箇所は、村岡が抹消した箇所である。刊行された『岩波哲学辞典』の「ヘラクレイトス」の記述と比較すると、語句や表現の微細な修正がなされていることがわかるが、最も大きな修正は「カクテ彼ハコノ真理ヲサマサマニ考ヘタ。之ヲ即チ元質ニ対シテハカクノ如キ多即一ノ真理ヲ象徴スルニ最モフサハシイ。火ヲ以テ元質トナシタ。火ハカクノ如キ」という箇所を抹消し、「万物流転」の後に「宇宙ノ本質」を「火」と捉えたという記述に修正していることである。この草稿が書かれたノートの表紙には「大正八年十一月十二日」と記されており、「ヘラクレイトス第二草稿」が作成された大正5年（1916）より後に作成されたことがわかる。「ヘラクレイトス第二草稿」とこの資料をあわせてみると、村岡はヘラクレイトスの思想を説明するときに、「反対の調和」をヘラクレイトスの思想の根幹を成すと捉える点が共通しており、「火」→「万物流転」という説明の順序は、最終的には「万物流転」→「火」という説明の順序にいずれの資料でも修正されていることがわかる。

以上の修正が村岡のいかなる意識を表わしているのかについては、村岡の他の資料、さらには同時代のヘラクレイトス理解を含めて検討していくことが必要であり、本稿で明確な見解を示すことはできない。しかし、村岡のヘラクレイトス理解に関する資料を丹念に追っていくことで、彼の思考の軌跡を跡づけることが可能になる。こうした作業は、村岡の西洋哲学理解、また早稲田大学嘱託講師時代の思想、ひいては同時代のヘラクレイトス理解の諸相を解明していくことにもつながっていくだろう。

注

- (1) 『波多野精一全集』第6巻・389頁（岩波書店、1969年）。
- (2) 『岩波哲学辞典』（岩波書店、1922年）
- (3) 「哲学辞典 希臘之部 第二冊〔資料メモ・抄録〕」（村岡典嗣文書、村岡Ⅳ・1－4。東北大学史料館所蔵）。

2、資料紹介

【凡例】

- 一 本翻刻は、東北大学史料館・村岡典嗣文書所収本を底本とするものである。
- 一 漢字は原則として新字体に改め、仮名遣い・送りがな・人名は底本通りとした。
- 一 合字は現行の仮名に直した。
- 一 必要に応じて句読点を補った。
- 一 翻刻者による注記は〈 〉で記した。疑義のある箇所には〔ママ〕を付し、欠損・判読不能の場所は□で示した。
- 一 資料中の訂正箇所（朱書による訂正や転倒付など）は、訂正された記述のみを翻刻し、必要な情報がある場合には末尾に注記した。
- 一 翻刻にあたっては、解説と第一章・第二章までを本村、第三章・第四章を鈴木が担当し、合議の上、最終的な原稿を作成した。

【資料紹介】

Herakleitos ノ研究（大正五年十二月十八日第二稿）

- 第一、 Introduction
- 第二、 主要ナル思想トソノ分析
- 第三、 ソノ思想ノ関係ト wesentlich ノ思想
- 第四、 Zeller ト Baumker トノ見解トソノ批評

Herak ノ著書ハ前第五世紀ノ初メニ作ラレ、It was known to very few of the ancients; but it survived till at least the third century A.D., when Hippolytus, bishop of Portus somanus, made copious extracts from it, in order to show that the heretic Noetus was a follower of Heraclitus rather than of Christ.

Vorrede VII

第一 Introduction

1) 現今 Herakleitos ノ哲学ノ data トシテ吾人ノ有スルモノハ 1、Haupt quellen トシテハ彼ノ著書ノ断片 2、Neben quellen トシテハ上代哲学者及ビ doxographer (i.e. students of early thought who made epitoms of the opinions of massers) ノ諸著ニイテタル彼ニ関スル passages ナリ。Fragments ハ Plato、Aristoteles、Theophrastos ハシメ約紀元五世紀頃比マ

テノ Stoiker, Eklektiker, Neo-platoniker, Kirchenlehrer 等ノ引用セル Herk. ノ著書ノ quotation ニシテ passages ハ question ナラスシテ諸著書ガ彼ニツイテ記セルモノナリ。Fragments ハ初メテ Schleiermacher ニヨリテ集メラレ、ソノ後新発見ノ source アリテ補ハレ、今日ニ於イテハ、Bywater, Heracl, Eph.Reliquire (1899.Oxford) ニハ130及ビ spurious F.8合計138. Diels ノ Fragmente der Vorsokratiker (1903) ニハ126及ビ zweifelhafte, falsche, & gefälschte F.13合計139ヲ載ス。而シテコノ両書ニオケル排列ノ順序ハ相異リ、Bywater ハ Herak ノ著書ノ区分ト称セラル、モノ (the universe、political、theological) ニヨリテ、之ヲ排列シ、Diels ハ主トシテ出典ノ著者ノ名ノ alphabet ノ順序ニテ排列セリ。

2) 彼ノ Fragments ヲ讀ミ来リテ、第一ニ感ズルコトハ、ソノ思想ノ範囲ノ之ヲ Miletus 派、predecessors ハモトヨリ parmenides 又他ノ Vorsokratiker ニ比シテモ極メテ廣括ニシテ、Kosmologie (Weltentstehung, Die specielle Physik, Weltgebäude)、Anthropologie (Der Mensch, sein Erkennen u. Thun) ノ凡テノ方面ニ渡リ、即チ natural & spiritual life ニワタリテ comprehensive generalization ヲ試ミタル点也。

而シテ第二ハ或ハ真理ハタトヒ常ニ存在ストイヘトモ、世人ハ初メテソヲ聞クトキモ聞カサル以前ノ如ク之ヲ了解セストイヒ、或ハ多識ハ真ノ知恵ヲ与ヘズトイヒテ、Hesiod, Pythagoras, Xenophanes ヤ Hekataios ヲノ、シリ、我ヒトリ真理ヲ躰得シエタリトナシ、自尊自信ノ態度、而シテ之ト相俟ツテソノ思索ノ intuitive ニシテ、マタ熱烈ナリシコトナリ。コレ Nietzsche ヲシテ彼ヲ parmenides ト比較シテ兩者トモニ真理ノ prophet ナリシガ、P. ノ氷ヨリナリシ如キ論理ノ冷サヲ有セシニ、Her ハ aus Feuer geformt トモイフヘキ Intuitive thinker ニシテ、ソノ態度タルヤ der Sturz und die Majestät der Wahrheit ヲ躰現セシモノト評セシメシ所以也。

第二章 主要ナル思想トソノ分析

彼ノ Fragment ヲヨリ帰納的ニ考フレバ、彼ノ哲学ニ於ケル主ナル思想トシテハ、吾人ハ Flux、Fire, Harmony of opposites ノ三者ヲ数ヘウ。

I. 流転変化ノ思想

1) 万物流転変化シテヤマサルヲ説ケルハ彼ノ思想ノ凡テノ方面ニ遍通セリ。而シテ Fragment 中コノ思想ニ及ヘルモノ約13、passages ハ Plato ヲ主トシテ Aristoteles 以下数多見ユ。

2) 万物流転シテ止マルモノナシノ明文ハ Fragment ニナク、之ヲ言ヘルハ Plato (Cratylus, Theaet.) ヲ主トシテ Aristoteles 以下ノ passages ニイツレモ見ユ。Fragment 中コノ思想ヲ最モ明ラカニ言表セルハ有名ナル流水ノ比喩ナリ。曰ク、“You could not step twice in the same rivers, for other & yet others are ever flowing one” (41-42)、“In the same rivers we stay or we do not stay; we are or we are not” (81)、ソノ他次ニフヘキ Urstoff fire ノ transformation トシテ、自然、人事ノ諸方面ニ於ケル諸々ノ事実ノ correlation トシテ change ヲ説ケリ。

3) 万物ノ流転ヲ説ケルハヤカテ万物ノ motion ヲ説ケルニテ motion トハ milesian 在来ノ思想ナリ。Thales ガ water ヲ Urstoff トシタルモノソノ changeable ノ character ノ故ナリト解セラル。Anaximandros ガ τό άπειρον ノ運動ヲ以テ万物ヲ説明シ、Anaximenes 又同シク最モ動キヤスク最モ変化シヤスキ故ヲ以テ空気ヲエラヘリ。Aristoteles ガ “He (Herak.) argued with most

thinkers in holding that things are in motion” (De anima) トイヘル如ク彼マタ同ジ思潮ニ棹シテ one ナル Urstoff ノ change ニヨリテ many ヲ説明セムトシタルナリ。決シテ抽象的、論理的ノ Werden ナラズ。

4) 彼ハマツ milesia 在来ノ transformation ヲ Urstoff ノ 変化ヲトケリ。曰ク、the transformation of fire are, first of all sea, … (21) (Baumker ハ Theophrast. ニヨリテコノ解釈ヲ斥ケタリ 21) ト、而シテ更ニ進ンデ Anaximenes ガ空気ノ稀薄、濃厚ヲ以テ万物ノ発生ヲトキシト同シク、彼モ又 Fire ノ quantitative change ヲ考ヘタリ。Fire is the first principle of all things, & it is subject to rarefaction & condensation, the one active, the other passive, the one synthetic, the other analytic. (Herm.) 之 passage 中ニイフ所ナリ。Fragment ニハ rarefaction & condensation ノ語ナキモ want & satiety ノ語ニテ同ジ意ヲトケルナリ (24) (Gompelz. コノ解釈ヲトレリ)

5) シカモ Herak. ノ change ノ思想ハソノ特ニ exchange トイヘル点ニーノ特色ヲ有ス。彼曰ク、All things are exchanged for fire, & fire for all things as wares are exchanged for gold, & gold for wares. (22) コノ Fragment ノ quellen ハ Plutarch ヲ主トシテ Philo, Diogenes, Laertius 等ナリ。コノ Fragment ノ original form ナリヤ否ヤハ疑ハルレト、exchange (ἀμείβομαι) ハ original トイハル。Diels ハ Umsatz findet wechselweise statt des Alles gegen das Feuer ト訳シ、Zeller ハ umgetauschen ト訳セリ。

6) コノ exchange ノ思想ハ Anaximander ガ qualitative change ノ傾向ヲウケテサラニ徹底的ナラシメタルモノニシテ Fire lives in the death of earth (25) For to soul it is death to become water (65) トイヘルカ如ク一ガ全ク他ニ成変ルコトナリ。而シテコノ特質ヲ更ニ最モ明カニ示セルハ change as measure for measure ノ意ナリ。金ハソノ相当スル価格ノ物品ニ取カヘラル、也。又曰ク、the earth is poured out as air measure the same moment as existed before it become earth ト

7) 而シテコノ transformation (quantitative change) exchange (qualitative change) テフ変化ノ二概念中ニハ厳密ニイヘハ矛盾存在セリ。シカモコノ両思想ハサナカラ彼ノ思想ニ共存セシ也。コハ次ノ Feuer ノ思想ヲ説クニ際シテ再ヒ出ツベシ。

II Fire

8) 万物ノ urstoff ヲ fire ナリトスル urfeuer ノ思想ハ彼ノ哲学ノ全汎ニワタリテ存ス。fire 及ビ fire ノ変化トセルモノ (driness、smoke、soul、wisdom、sun) ニ関スル Fragmente ハ約19、Aristoteles 等ノ passages 又之ヲ説ケリ。

9) 彼ハ21. Transformation of fire are, first of all, sea; & of the sea one half is earth, & the other half is lighting flash. ノ如ク fire ヲ以テ万物ノ transformation ノ subject ト考ヘタ。Aristoteles met., Hippasos of Metapontum & H of E. call fire the first cause.” ヲハシメ H カ fire ヲ urstoff ト考ヘシコトヲ証スヘキ passage モ数多アリ。

- 10) コノ fire ヲ milesian 在来ノ urstoff ト比較スルニ、
- (a) Symbolic ノ意味ナラデ real fire ナルコト
〔ノートの左頁に以下2行の記述がある〕
symbolic ト解セシハ Teich muller ノ陥リシ誤リ
Burnet real fire, of course, “that burns & crackles” (p.148.)
- (b) 万物ノ change ノ初メニシテ終ナルコト — (underlying substance.)
〔ノートの左頁に以下3行の記述がある〕
Anaximander, Anaximenes トアパイロン air ニツイテ同様ニイヘリ。“All things are exchanged for fire, & fire for all things” (22) “The transformation of fire” (21) Fire is want & satiety (24)
- (c) Divine character of urstoff
Tales, Anaximander, Anaximenes イツレモ之ヲソノ urstoff ニ評セリ。Herak. soul, wisdom 等ニモ評セリ。God takes various shapes just as fire (36) Dry soul is the wisest & best (74,76) God is intelligent fire 等. ニ於イテ全ク同シ。
- 11) 而シテコレト同時ニ更ニ次ノ二点ニ於イテソノ特色ヲ有セリ。
- (d) (b) ノ結果トシテ transformation ノ subject トシテ underlying substance タルトトモノ exchange ノ初メタルモノトモ解セラル、コト (コレ Feuer ニツイテノヘント同シ矛盾ナリ)
- (e) ordnung トシテノ intelligency ヲトキシコト。“This order (*κόσμος*), which is the same in all things, no one of gods or men has made ; but it was ever, is now, or ever shall be an everliving fire, fixed measures of it kindling & fixed measure of going out” (20) トイフ点ニ於イテ milesian ニ対シテ特色ヲ有ス。

III Harmony of opposites – Gesetz

- 11) 自然人事ニ渡リテ相対シ、相反対セル一切ノ現象ノ帰一調和ヲ説キ、之ヲ宇宙ノ gesetz ト認メタルハ、彼ノ哲学ニ於イテ最モ有力ナル思想ナリ。従ツテコノ思想ニ関スル Fragmentes ハ最モ多ク、約35ヲ数フ。passages 又 Aristoteles, Plato 以下多クアリ。
- 12) opposite ノ二作用ヲ説キシ思想ハ希臘思想史上極メテ古ク、Old tradition ノ ourano & gaia ノ思想、Hesiod ノ Chaos & Eros ノ思想、Anaximander ノ separating our opposites, Anaximenes ノ rarefaction & condensation 等アリ。Harmony テフ思想ハ Pythagorean ニ於ケル著キ特色ニシテ、Pythagoras ソノ人ニヨリテモ説カレタリト考ヘラル。Herak ノ Harmony of opposites ノ思想ニ至ツテハコレヲ比較スルノ要ナキホド wide & deep ナリ。
- 13) 先ツ strife ヤ opposition ニヨリテ万事万物ノ progress スルコトヲトケル dynamic harmony ノ方面ヨリ見ム。
- (a) Strife, opposition
Homer was wrong in saying ; would that strife might perish from among gods & men! He did not see that he was praying for the destruction of the universe, for if his prayer were heard, all things pass. (43) — War is father of all & king of all (44) It is opposition that brings thing together (46)

(b) Alternation. (万物ノ反対カラ反対ヘ対シテ畢竟 harmonius progress ヲナスヲ説ケルモノ)
Cool things become warm, the warm grows cool ; the wet dries, the parched becomes wet. (39)
Life & death, & waking & sleeping, & youth & old age, are the same ; for the latter change &
are the former, & the former change back the latter. (78)

(c) exchange (change of measure for measure)

All things are exchanged for fire, & fire for all things ; as ware are exchanged for gold, & gold
for wares. (22)

(The earth) is poured out as sea, & measures the same amount as existed before became
earth. (23)

[以下の2行はノートの左頁に記載されている]

(69) Upward, downward, the way is one & the same.

(70) Beginning & end are common (to the both way)

14) 同シク反対ノ調和ヲトクモシカモ必スシモ dynamic ノ意味ナラスシテ、反対ノウチニ静的
ニ Harmony ノ内在セルコトヲイヘルモノ。

(a) opposition

Men do not understand how that which draws apart agrees with itself, harmony lies in the
bending back, as for instance of the bow & of the lyre. (45)

For woolcarders the straight & the crooked path is one of the same. (50)

(b) Relativity (価値ノ相対的ニシテ善悪、美醜同一ナルヲイヘルモノ)

Asses would rather have refuse than gold. (51)

The sea is the purest & the foulest water; it is drinkable & healthful for fishes ; but for men it
is unfit to drink & hurtful. (52)

Good & bad are the same. (57)

Man is called a baby by god, even as a child is by man. (97)

コノ relativity カ決シテ sceptic ノ説テナイコトハ後ニトク所テワカル。

15) 一層広イ theological ノ立場カラ宇宙ノ wesen ヲ harmony of opposites トトイタモノ。元来
彼ノ神観ニハ三種アル。一ツハ多ク gods トイフ flural form テ述ヘラレタモノテ即チ102, Gods
& men honour those who are slain in battle, 又次ニイヅル order, fragment ニ見エタ gods デ、
之ハ当時ノ popular idea ノマ、ノ gods テアル。コレハコ、ニ関係ナイ。コ、ニ述フヘキハ他ノ
ニテアル。

(a) as order — urfire

This order, the same for all things, no one of gods or men has made, but it always was, &
is, & ever shall be, an ever living fire, kindling according to fixed measure, & extinguished
according to fixed measure. [(20)]

(b) コノ everliving fire トイフ anschaulich ノ god トトモニ彼ガ神的理性テフ absolute being
(wesen ニ於イテ) ノ観念ヲ有セシコトハ次ノ Fragmente ニヨリテワカル。

36. God is day & night, winter & summer, war & peace, satiety & hunger, but he assumes
different forms, just as when incense is mingled with incense ; every one gives him the name

he please.

61. (God, ordering things as they ought to be, perfects all things in the Harmony of the whole, as Herak says that) for god all things are fair & good & just, but men supposes that some are unjust & others just.

98. And does not H, whom you bring forward, say this very thing, that the wisest of men will appear as an ape before God, both in wisdom & in beauty and in all other respect ?

カクノ如キ思想ハソノ凡テ Harmony ノ思想殊ニ relativity ノ思想ノ根柢トシテ彼ノ思想ニ存シタ所デ、タトヒ一面 urfeuer トイフ Anschaulich ノ性質ヲハナレカネタニセヨ、シカモノノ目的ニ於イテ urstoff 以上ノモノテアツタト言ヒウルト思フ。

第三 彼ノ思想ノ immanent relation トソノ wesentlich ノ思想

1) 以上三ツノ思想ヲ取出テ分析的ニ考ヘタカ、コノ三ツノ思想ハ彼ニ於イテハトモニソノ凡テノ方面ニ包括シ三ニシテ一、一ニシテ三トイフ inner relation ヲ有スル。Trinity of thoughts デアル。Fire ガ urstoff ナルハ最モ changeable テアル故テアリ、change ノ内容ハ harmony of opposite テアル。シカシコノ三思想中ニ central 若シクハ wesentlich ノ position ヲ占ムルモノハ何テアルカヲ考ヘネハナラス。而シテコレニ対スル吾人ノ答ハ、Harmony of opposite ノ思想テアル。之ヲ以上ノ分析ノ結果カラ論証スル。

2) 論証第一、Feuer ノ思想ハ ordnung ノトシテ change ノ思想ハ exchange トシテソノ originality、characteristic ヲ有シ、コノ両者ハ即チ Harmony of opposite ノ思想ニ帰一セラル、コト

論証第二、Feuer ノ思想ハ change ノ思想ヲ cover シ、harmony ノ思想ノ一部ヲ cover スルニモカ、ハラス、harmony ノ思想ノ最モ主ナルモノナル relativity、ソノ根柢タル God ノ思想ヲ cover シエス、Change ノ思想ニ於イテモ同様ナルコト、之ニ反シテ Harmony ノ思想ハ両思想ヲ cover シテソノ根柢タルコト。

論証第三、change ヲノフル際ニ注意シタ如ク、彼ニハ exchange ヲ特質トシツ、他ニ transformation テフ思想カアツタ。同シク fire モ persistent urstoff テフ意ト exchange ノ subject トシテ unpersistent ノ性質トカアル。コノ両者ハ即チ urstoff トシテノ fire ト exchange トイフニ思想ノ対立テ、コノ間ニハ gap ガアル。之ハ Windelband ガ古代哲学史ニ Die exzeptionelle schwierigkeit disses Gedankenverhältnisses トナシテ、Her ノ Dunkel トヨハレタ故ハコ、ニアルトナシタ (35) 所テアル。而シテ彼ハコ、ニ抽象ト具象ト、anschaulich ト Symbolish トノ混合カ存シタトナシ、終ニ ἀρχη ノ意味カ彼ニ於イテハ、miletos 派ノモノト全然別ニナツタト考ヘタ。併シ anschaulich ト Symbolish トノ混合ハ vorsokratischen ノ通性テアル。コレヲ以テ Dunkel トヨフヘクンハ Parmenides ハイヨイヨサウテアル。Her. ニ urstoff テフ在来ノ考カアツタコトハ事実テアル。而シテコノ矛盾ノ存在ハ吾人ニヨレハ fire ト change トノ両者カイツレモ彼ニ於イテ wesentlich ノ思想テナクテ他ニ Harmony ノ思想カアリ、コノ思想ニ支持サレタメニ矛盾ノ自覚ヲ感ズルコト共存シテキタト解スヘキテアル。

3 / 以上ノ理由ヲ以テ吾人ハ彼ガ I inquired of myself (80) トイヒ Men do not know how that which is drawn in different directions harmonizes with itself (45) ト言ツテ独創ト insight ニホコリシ思想ハコノ彼ニ於イテ最モ fundamental ニシテ comprehensive ナル nature loves to hide

(10) テフソノ hidden harmony (49) 又ハ the most beautiful harmony ノ思想テアルト思フ。而シテコノ思想ガ彼ニ最モ安ンスヘキコトハ Philo 已ニ彼ガ new discovery トシテ證ツタ所トイヒ、Burnet モ之ヲウケテ The discovery of H トイヒ、又 Kühnemann ガソノ著 Grundlehren der Philosophie 1899. ノウチニ、彼ノ inneren Erfahrung カライテ、verfeinert サレタ思想、彼ノ思想ノ erste Bedeirfnes ノ彼カ一般ノ俗見ニ対スルハケシキ反対ノ点、彼ノ思想ノ最初ノ建設点テ同時ニ最後ノ Individuality、即チ Heraklet ノ die innerlichste Idee テアルト言ツタ。

4 / 今コノ立論カラ Herakleito ノ哲学ノ Darstellung ヲ試ミシハ吾人ハ下ノ如ク言ヒウル。彼ノ intuitive ノ insight ハ自然人事ノ現象ニシテ、或ハ動的ニ或ハ静的ニ opposites ノ harmony ノ存スルコトヲ認メタ。而シテコノ harmony ハ彼ニヨツテ gesetz ト考ヘラレタ。而モコノ idea トトモニ、ionian philosopher タル彼ハ anschaulich ニ urstoff ヲ考ヘサルヲエナツタ。而シテソノ urstoff ハ彼ニオイテハ常ニモエテシカモ同シ quantity ヲ保チ他諸々ノ別ナル物ヲ一シ点ニ帰セシメシカト、他ノ事物ノ leben ノ源タル feuer ヲ (水ヤ空気ヨリモ) エラバサルヲ得ナカッタ。而シテ urstoff ハモトヨリ changeable ヲソノ性質トシテ有スル harmony ノ一面ノ dynamic ノ性ハコ、ニ結合シテ、コ、ニ milesian ヲヨリ更ニヒロク、又深イ意味テ flux トイフ思想トナツタ。而モカクノ如キ mental process ハ彼ニ於イテハモトヨリ純然タル logical process テナクテ、semilogical&semipsychological、ノモノテアツタ。分断的ヨリムシロ総合的ノモノテアツタ。コレソノ intuitive thinker タル所以テアル。

第四 Zeller ノ見解トソノ批評

1) 然ルニ一般史家ノ間ニハムシロ change ノ思想ニ重キヲオイテ Her. ヲ解スル傾キガアル。

Windelband ノ如キモ之テ彼ハ万物ノ流転無止ヲトケルハ已ニ古代ニオイテ Herakletismus ノ Kern ト解サレタトシ、コノ点ヨリ常在的 sein ノ否定ヲソノ説ノ wisen トナシ、parmenedes ト対シテ metaphysische Grundgegensatz トナシテ之ヲ miletos 派ノ後ニ説イタ彼ガ fire ヲ milesian ノ urstoff ト全ク別種ノモノトシ変化スル ἀρχή テフ思想關係ニ Die exceptionelle Schwierigkeit ヲ認メサルヲ得ナカッタノモムシロコノ解釈ノ自然ノ結果テアル。

2) 希臘哲学史トシテ已ニ classical ノ位地ヲ有スル Zeller ガ Philpsophie der Griechen ニオケル見解ハソノ最モ代表的ノモノテアル。彼ハ Ioniren - physik, Phythagoreeren - Ethik, Eleaten - Ethik, Sophisten - 凡テノ瓦解テフ在来ノ解釈ヲヤフリ凡テノ vorsokratische phil ハ ihrem Inhalt und Zwecke nach Naturphilosophie テアル。従ツテ Ionien カラ Eleaten マテハ urstoff ヲ究メ werden ノ möglichkeit ヲ問題トシター系ノ思潮デ werden ト Vielheit トヲ否定シタ。Eleaten ニヨツテ Vorgänger ノ unbewusste Voraussetzung ガ承認サレ、Ionieren 思想ガ究極シタ。而シテ Eleaten ノ seiende ニ対シテ之ヲ絶対ニ否定シ werden ヲトキ之ヲ無条件的ノ law トナシタ。Heraklit ニヨツテ新シイ途カヒラケタノテ、ソレヨリ後 Empedokles, Atmisten ハ更ニ werden ノ Begriff ヲ十分研究シテ Stoff ノ結合分離テフ觀念ニ入ルニ至ツタ。カクノ如クニシテ Zeller ニ於イテハ Herak ノ哲学ノ wesen トソノ出発点トハソノ Eleaton ノ sein ノ否定テフ点ニ存シタ。

3) 而シテコノ見識カラ試ミタ Zeller ノ Herakleitos 哲学ノ Darslellung ハ極メテ brillante ノモノテアルガ、ソノ三主要觀念ノ關係ヲ説ク上ニ於イテ次ノ如キ無理ニ陥ラサルヲ得ナイ。

a) Fluss — Fire

Fluss aller Dinge テフ metaphysische Satz ニ対シテ Feuer ハ physikalische Anschauung^{ママ} テアル。コノ両者ウチ grund タルモノハ前者テアツテ後者テナイ。万物流転ハ彼ニトツテハ事実テソレニ対シテ Feuer カ世界ノ urstoff タル命題ハ単ニ現象ノ原因ニ関スル Aussage (報告、供述) テアル

コノ解釈ハ極メテ巧妙テアルガ、彼ノ Feuer ガタシカニ urstoff トシテ milesian ノ urstoff ト同一ノ性質ヲ凡テ具有スルモノテアルコトハ吾人カ研究シタ如クテアル。Windelband ノ難点ハ彼ノ説明ニヨツテハ実際陷入サルヲエヌ。

b) Fluss — Harmony

彼ハ万物流転ヨリ凡テノ反対ハ一致ストノ命題生シ来ルトシ、之ヲ説明シテ凡ソ変化トイフコトハ一ノ状態カラ他ノ反対ノ状態ニ至ル Uebergang テアル。故ニ万物カ変化シソノ変化ノミ存スルトセハ、万物ハ反対ノ中間ニナケレハナラヌ。変化ノ流レノイツレノ点ヲトルモ、ソハ必ス両ツ反対スル性質モシクハ状態ノ相接触スル Uebergangs- und Grenzpunkt^{ママ} テアラネハナラヌ。又カルガ故ニ Her. ハ万物ガ変化スルト考ヘル事カラ反対ノ一致トイフコトヲ考ヘルノテアルトナシタ。

カクノ如キ解釈モ又頗ル巧妙テアルガ subjective ノ解釈テ、之ヲ H ノ Fragments ニ何等ノ証ヲ求メエナイハカリテナク、Her. 自ラノ change ノ思想ハルカニ具体的 anschaulich ノモノテアル。コノ Zeller ノ解釈ハ彼カ不知不識彼自ラノ dialektic ヲ用キントシタノテアル。

コノ二点ノ difficulty ハヤカテ万物流転ヲ wesentlich ニ解サウトシタ結果テアル。

4) 而モ彼等ガカクノ如キ解釈ニハ、特ニソノ存在ノ意義カアル。Heraklet ノ万物流転説ハ Sophist ニ至リ Protagoras ニヨリテソノ懷疑説 (我モ物モ変化シテ常在ナラサレバ世ニ常在ノ真理ナシ) ニ採用キラレカクテ Plato ニ及ンダ。

元来万物流転ヲ Heraklit ノ思想トシテ重キヲオイトノハ Plato テアル。Πάντα ῥεῖ¹ ノ語、已ニ彼ノ Fragment ナラテ、Kratylus ニ出ツ。而シテ Cratylus (439-440)、Teaet (152E) ニ彼ハ Protagoras ノ懷疑説ノ前提トシテ Herrak² ノ思想ヲ論シ、彼ノ現象界ニ対スル説明 (一方ニ Elea ノ思想ヲ本躰界ニ適用セシニ対シテ) トナシタリ。而シテ Harmony of opposites ノ思想ニイタリテハ Plato ハ或ハ之ヲ Phaedo ニ於ケル靈魂不滅第一証明 (70, E) ニ Harmony as alteration ノ意ニテ Life ト death トノ alteration トシテ用キ、或ハ Symposium (187) ニ於イテ Erysimachus ノ言トシテ、Harmony is the reconciliation, not of opposite elements, but of elements which disagreed once, and are now harmonized コレ Her. ノ真意ナルヘシトノ意ヲノヘテイキルノミテアル。

次ニ Aristotleles 及ビ彼ノ注釈者モ又 flux ノ方面ヲムシロ Herak³ ニ重キヲオキ、protagoras-platonic ノ批評ヲ下シテキル。而シテ又 Harmony of opposites ニ対シテハ Satz des Widerspruches ニ反対スルトナシ H ノイヘル如ク同一物ノアリ又アラヌトイフ如キハ信スルヲ得スト言ヘリ。

5) 而シテ Her. ガ protagoras、Plato、Arist 等、殊ニ Plato ニヨリテカク解セラレタトイフノハ、コノ意味ニオイトテ彼等ニ影響シタトイフコトテ、ヤカテ希臘哲学史上ニ於ケル史的意義ヲ定ムルモノテアラネハナラヌ。希臘哲学史ノ記者タル Zeller 等カ Her. ノ werden ノ思想ニ重キヲオイトテ、彼ヲ darstellen スルノハコ、ニソノ意義ヲ有シ得ル。併シナカラ同時ニマタ Plato、

Arist ハ決シテ史家テハナカツタ。彼等ノ Her, ノ解釈ハ Her. ノ wesen ヲ囚ヘエタモノトハイビス。殊ニ Plato ノ如キ Herak ソノ人ヨリハムシロ Herak 末派ニツイテ説イタ傾カアルトサレル。是ニ於イテカ P.A. ガカク解シタトテ決シテ吾人ノ monographical ノ結論（正シトセバ）ヲ動かスコトハ出来ヌ。ハタシテ然ラバカクノ如キハ一思想家ノ monographic ノ意義トソノ史的発展上ノ意義トノ別ナル一例トシテ頗ル注意スルニ足リル。

11) Gesetz - ロコス - 神火ノ思想ガ Stoa 学派ニ於イテ復活セシ事実ハアルモ、モシソレコノ反対ノ一致トイフ思想ニ至ツテハ、久シク顧ミラレズ、後ニ Bruno ヤ Nicolaus Cusanus ニ至ツテ Coincidentia oppositorum ノ思想トナツテ現ハレ、コレラノ思想家ト Herakrit トノ實際ノ関係如何ハコ、ニ説クトコロテナイガ、サラニ Hegel ニ対シテハマサシクソノ disliketik ニ於イテ Her. ハ先駆者ヲナスモノトイヘル。サレハ Hegel ハソノ希臘哲学史ニ於イテ特ニ Herak. ノコノ方面ヲ emphasis シテ Einheit der Gegensätze、Identität von Sein und Nichtsein ノ説ヲ Herak ノ system ノ Grandlage ト考ヘタ。Hegel ノ解釈ニハモトヨリ多クノ独断ガアツテ従ヒエヌ。シカシ或意味ニ於イテ彼ハ Herak. ノ wesen ヲ捕ヘエタトイヘル。

コレラハイツレモ近世ノコトテアル。少クトモ希臘哲学史ニ於イテハ、I inquired myself (80) ト標置シタ孤高ノ哲学者 Her. Der Dunkel ハ Dem Menschen ist sein Sinn sein Gott (Man's character is his fate) デ永クソノ歴史上ニ dunkel テアツタノテアル。

第四 Zeller、及ビ Gomperz - Baumker ノ解釈トソノ批評

1) 然ルニ有力ナル史家ノ間ニハ別ナル解釈ガ行ハレテヤル、即チ

- (1) flux ノ思想ヲ重キヲオイテ解釈スルモノ — Zeller
- (2) Fire ノ思想ヲ出立点トスル解釈 — Baumker、Gomperz

(1)

1)、2) 3) 4) 5)

(2)

6) Baumker、Gomperz 両者ノ解釈ハ精シクハ互ニ同シテナイガ、ソノ Heraklit ヲ urstoff ノ fire ヲトイタ vlyrtiker トシテ、mileisian、desmotosist ノウチニ数ヘタコトハ同シテアル。而シテコノ見解カラトモニ Her. ノ philosophie ノ出立点ヲ feuer ノ思想ニオイテ解釈シテキル。而シテコノ解釈ハ Zeller フリノ flux 中心ノ解釈ノ無理ヲ脱シツ、又他ノ無理ニ陥ツテ結果 Harmony 中心ノ解釈ニ帰セムトシテキル。

7) Baumker ガ feuer ヲ milesian urstoff ト同一性質ノモノト説キ、Hylozoistish ノ変化ノ許多ノ一元タルモノテアルトトキ、初メ fluss ヲ一切ノ万物ハ一切ノ瞬間ニソノ一切ノ成分ヲ変ヘルトイフホトノ Plato ノ Clatylus 流ノモノトナサナイテ全世界及ヒソノウチノ一切ノ万物ハ隆々タル漸次的ノ而モタエマナイ process ヲ以テ推移シテ、同様ノ他ノ process ヲ 生セシメテキルト解シタトナシタノハ、Herak. ノ哲学ノ physical ノ性質ヲヨク解シタモノトイヒウルカ、シカシ一方ニ feuer ノ思想ヲ以テ彼ノ思想ノ出立点トシツ、ソノ feuer ノ変化ノ natural process ノ明瞭ニトカレテヲラナイニツケテ、彼ノ思想ハ begreiflich、abstract - metaphysische Seite

ニムイテ一切万物変化トイフ命題ニ達シタト説イタ点ニ於イテ、更ニ別ナル出立点ニ移ツテキル。従ツテコノ両思想間ノ gap ハ Zeller ニオケルガ如ク依然トシテ充タサレテヲラス結果ヲ示シテキル。

8) 次ニ Einheit der Gegensätze ノ思想ノ解釈ニ至ツテハ、彼モ又之ヲ H ノ system ニ於イテ eine fundamentale Belegung ヲ有スルモノトシ、サテコノ Lehre sim ヲ説イテハ

(1) Hegel、Lassel、^{〔ママ〕}“hyper idealistische Auffassung” (darin den Ausgangspunct der hegelschen Logik, die Identität von Sein und Nichtsein, zu erkennen gemeint) ヲ否定シコノテンニテ Zeller ヲ承認シタ。

(2) 而モ Zeller ノ解釈ノ批評ニ入ツテ、Zeller ハ Einheit der Gegensätze ニ対シテ doppelte Erklärung ニ入ツタトシ

a) dass dasselbe Ding entgegengesetzte Bestimmungen in sich vereinigt ^{〔ママ〕}

b) anderswo mit einer leichten Nuancierung des Gedankens an die Stelle des Dinges der einzelne Moment des Werdeprocesses, welcher entgegengesetzte Bestimmung in sich verknüpft (コレ吾人が前ニ批評シタモノ)

ヲアケ第二ノ Zeller ノ恰カモ Herak. ガ個々物又ハ全世界ノ Beharren ノ Schein ヲ反対ノ一致ニテ説カストシタルノ、如クナス解釈ヲ斥ケタ

(3) 而シテ彼ハ Herak. ニ於イテハ Aller gegensatz ハ nur relatives テアルトシ、コノ relativity トイフコトニ重キヲオイテ、コノ思想ヲ解釈シタ即チ彼ニヨレハコノ思想ハ

1. zwei entgegengesetzte Dinge (Vorgänge) sich in gegenseitigen Ergänzung zu einer geneineschaftlichen Wirkung Verbinden,

2. dass ein Ding (Vorgang) insofern entzengesetzte Bestimmungen vereint, als es entweder

a) in Relation zu verschiedenen Dingen, oder

b) in verschiedenen Entwicklungsstufen betrachtet wird

ノ三ツノ場合ニ於イテ今考ヘタ。

而シテカクノ如キハ之ヲ beschränkte relative Standpunkt テナク、absolute Standpunkt カラ Gesandheit ヲ考フレバ一切ノ反対ハ単ニ relative ナルノミナラス、消滅シテ世界ノ雑多ノ永久生活 w/verige Form トナル。コレガ Harmonie テアル。

而シテカク Einheit der gegensätze ガ決シテ Hegel Lassel ^{〔ママ〕} タケノ hyper idealistisch ノモノテナイトトモニ Feuer ハ Immaterialles ノモノテナイ。

9) Bäumker ガ Zeller ノ解釈ヲ批評シテ Einheit der gegensätze, Relativität ヲ重キヲオイトノハソノ alternation, opposition 等ノ dynamic Harmony ノ方面ヲヤ、注意シナカツタ傾キハアル。シカシタシカニ正当ナ解釈テアル。而モ彼ハコノ思想ノ Herak 哲学ニオケル immanent relation ヲ説クニオイテハヤハリ Zeller ノ如ク werden カラ否、或ハ werden ヲ medium トシテ説カウトシタ観カアル。

即チ彼ハ Das Werden die Veränderung aber besteht in einen fortwährenden Hin-und Herwogen zwischen Gegensatz トナシ Schon hier zeigt sich die wichtige Rolle, welche der Begriff des gegensatzs in der Theorie Herakrit's von Werden spielt トイヒ、サテシカモコノ思想ハ彼ノ根本的思想テアルトシテ前述ノ如キ relativity ヲ主トシタ説明ニ入ツテキル。

(a) 彼カソノ解シタ werden ノ思想ヨリ Einheit gegensätze (in theorie von werden) ノ

思想ヲ説イテ来タ説明ノ processハ極メテ naturalテアル。シカシソノ naturalテアル所以ハソノ werdenノ解釈ニ已ニ Einheit der gegensätzeノ思想ガ豫想サレテキルカラテアル。***Herwogen gewischen Gegensätzenトイフノカ彼ノ changeノ思想ノ characteristicテアルコトハ吾人モ之ヲ認メル。シカシコレハ彼ノ changeノ思想ノ allテナイ。milesian在来ノ motionノ思想ヲトイタ彼ノ changeノ思想ノ一部テアル。ソハ Einheit der gegensätzeノ思想ヲ豫想スヘキモノテナクテ、ソレニヨツテ豫想サルヘキモノテアル。

b) 次ニ werdenトシテノ Einheit der gegensätzeヨリ、ソレヨリモ重ナル relativityノ relationハ彼ニ於イテハ明ラカニ述ヘラレテヲラヌガ、ホ、彼ト同一ノ解釈ヲトレル Gomperzノ言

“Der Eigenschaftswechsel im Nacheinander hat sein gegensues Gegenstück im Nebeneinander”ノ如ク、要スルニ同一ナル反対ノ一致テフ思想ニ基イテ相対立スヘキ思想テアツテ、彼ノ思想ノ immanent relationカラ見テ前者カラ後者カ forgenスヘキモノテナイ。ソノ中心ヲナス反対ノ一致テフ思想ノ二面ノ現ハレト解スヘキテアル。

10) 要スルニ Baumkerノ解釈ハ Feuerノ ionian urstoffノ思想ヲ出立点トシテ Herakノ哲学ノ developmentヲ説カムトシタモノテ、ソノ Zellerノ weden中心ノ思想ノ欠陥ヲ補ツテキツツモ同時ニ intuitive thinkerタル Herak.ノ哲学ノソノ intuitionノ焦点タル Harmonyモシクハ Gesetzノ思想ヲ Herakノ philosophieノ physische—metaphysisch—Theologischeニ至ル発展ノ終ニ持ツテ来テキル観カアル。カクノ如キハ彼ノ Fragmentsノ間ニシヒテ發展的意義ヲヨマムトシタモノト言フヘキテ naturalノ解釈トイヒカタイ。果シテ然ラハ之マタアル意味ニ於イテ (Materieノ Theorieノ歴史ヲカケル彼ノ著ノ立場トシテ或ハ当然ナルヘキ) 前ノ Zellerノ場合ト同シク monographicalノ解釈トアルーツノレキシテキ解釈トノ差トイヘル。